

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 27 年度第 7 回）議事録

日 時 平成 27 年 10 月 28 日（水）10：00～11：30
場 所 国立研究開発法人国立がん研究センター 第 1 会議室
出席者 堀田知光理事長 児玉安司理事 松本洋一郎理事 南砂理事
門田守人理事 中釜斉理事
小野高史監事 長崎武彦監事

議事概要

I. 理事会（平成 27 年度第 6 回）議事録の確認

- ・NEXT 整備にかかる試算の減価償却費について、説明がなされた。
- ・議事録について、資料のとおり了承された。
- ・議事録署名人を松本洋一郎理事と長崎武彦監事にお願いした。

II. 審議事項

1. 8B 病棟（26 床：休棟中）の利用について

- ・昨年 8 月から休棟した中央病院 8B 病棟 26 床の後利用等についてサポートセンター（仮称）を開設する計画を資料に基づき説明がなされた。
- ・本件提案は、その組織の長が説明すべき内容であるとの意見があった。
- ・開設する背景、方向性は理解するが、アウトカムがどのようになるのか、開設後の必要とされる成果が見えないとの意見が出された。
- ・取り組みとしては良い考えであると思う。患者を病院にから在宅へ戻していくとう、その流れをどのように確立させていくか期待したいとの意見が出された。
- ・方向性は素晴らしい。センターが実施していくことも意義がある。可能であれば、相談窓口機能を近い場所に作れないか。また、患者会のノウハウなど、運営の工夫も必要ではないかとの意見が出された。
- ・サバイバーからの質問に的確に答える場、支持療法を発展させていく仕組み作り、都会型の通院治療をベースに考え、オープンスペースとして患者・家族に情報を提供する場としたい。
- ・8B 病棟（26 床：休棟中）の後利用等について、了承された。

2. 新研究棟に係る所要額について

- ・新研究棟に係る所要額について、資料に基づき説明がなされた。
- ・審議事項を明確にしてほしい、対応方針（案）は抽象的な表現でなく、具体的な取り組みを示してほしいとの意見が出された。
- ・研究所の収支見込みは、損益計算書ではマイナス、キャッシュフローでは僅かなプラスとなるが、センター全体では新研究棟竣工後の支払い総額を見込むとキャッシュフローの不足が見込まれる。竣工までの間に、資金を作ることが必要であると認識した上で、計画を進めていく。

- ・センター全体で資金を有効に活用していくことを考え、随時、必要に応じて理事会として状況を確認しながら計画を進めて行くこととしたい。
- ・新研究棟に係る所要額については、了承された。

Ⅲ. 報告事項

1. 第304回中央社会医療保険協議会総会 患者申出療養
 - ・9月30日に行われた第304回中央社会医療保険協議会総会において議題となった患者申出療養について資料に基づき報告がなされた。
2. 人道的見地からの治療参加（日本版CU）
 - ・9月17日に行われた中医協薬事分科会において話し合われた人道的見地からの治療参加（日本版CU）について資料に基づき報告がなされた。
3. 産学連携・知的財産に関する（2014年度／2015年度上半期）報告
 - ・産学連携推進室及び知的財産戦略室の2014年度、2015年度上半期にかかる業務について資料に基づき報告がなされた。
4. A-tractionの国立がん研究センターベンチャー企業認定について
 - ・10月19日にプレスリリースしたA-tractionの国立がん研究センターベンチャー企業認定について資料に基づき報告がなされた。
5. 情報セキュリティ対策への対応状況
 - ・5月に発覚した日本年金機構の個人情報漏洩事件を契機に、厚生労働省から通知依頼があった情報セキュリティ対策に係る対応状況について資料に基づき報告がなされた。
6. 築地キャンパス省エネルギー推進委員会について
 - ・9月29日に行われた築地キャンパス省エネルギー推進委員会において話し合われたLEDへの切り替え方針について資料に基づき報告がなされた。
7. 広報実績について
 - ・9月17日から10月23日までの間にあったプレスリリース、取材申込み等について報告がなされた。
8. 平成27年9月分月次決算について
 - ・平成27年9月分月次決算、病院指標等及び8月までの累計組織別決算状況について報告がなされた。